

～新潟地区 & 地区被災支援委員会主催講演会～

主題：被災地で新しい言葉に出会う、それが親しい言葉となる

—— 7・13新潟県豪雨災害から 20年 ——

講師：上島一高(かみじま かずたか)日本キリスト教団松山教会牧師

(水害当時・同新潟教会牧師・同三条教会代務者・新潟地区長)

日時：7月 21 日(日)15:00～

会場：三条教会 & Zoom

ミーティング ID:874 7816 9802

PW:654321



<お誘いの言葉>

突然の災害に一歩が踏み出せない。そんな時、三条教会員の町の人々への思い、新潟地区・関東教区の人々の応援、所属教会の後押し、そして、1995を経験した客人(マレビット)たちの来訪があった。小さいけれど、懸命で、温かい被災支援は、こうして生まれた。

そこで出会ったのは、古くて新しい言葉。ベタながら「聖書をそのまま生きている」ような「語り」であった。それは、2004年新潟県中越地震、三八豪雪以来となる2006年「平成18豪雪」、2007年の新潟県中越沖地震を通して、わたしたちを導いてくれた。

新潟を去って間もなく起きた東日本大震災では、新潟地区の素早い応援の様子を四国から頼もしく聞いた。四国教区有志は、エマオへの道四国を立ち上げて東北を訪ねたが、予期せず、被災者の「語り」を聴くことに。その言葉は、今も耳の中でこだましている。

今回は、押しかけのプログラムを新潟地区のみなさんが受け止めてくださり、感謝している。相変わらず、「一歩が踏み出せない」人間の拙い話を通し、そこにも働かれる神さまの風、マレビットとして来られるイエスを感じていただければ幸いである。

(上島一高)

